



リリースノート(参考資料)

AdRem NetCrunch 14

NetCrunch は AdRem Software が開発し所有する監視ソフトウェアである。
株式会社情報工房は日本における総販売代理店である。

©2024 Johokobo, Inc.

[20240819]

目次

1. 本資料について	1
2. NETCRUNCH 14 の新機能/変更点/修正点.....	1
2.1. バージョン 14.0.3.7244.....	1
2.2. バージョン 14.1.0.7294.....	3
2.3. バージョン 14.1.1.7298.....	4
2.4. バージョン 14.2.0.7316.....	5
2.5. バージョン 14.2.2.7321.....	5
3. 既知の問題	5
3.1. その他.....	5
4. よくある質問.....	6
4.1. よくある質問および回答.....	6

1. 本資料について

本資料では、AdRem NetCrunch バージョン 14.2.2.7321 日本語版(以下 14)について記しております。

2. NetCrunch 14 の新機能/変更点/修正点

NetCrunch 14 での新機能、変更点、修正点について記載いたします。

2.1. バージョン 14.0.3.7244

- 150 個以上の新しい MIB を追加
- 2000 個以上の新しいシンボル(Azure、AWS、Google、VMWare のライブラリを使用)を追加
- 3000 個以上の独自スタイルの新しいアイコン(実線、通常、軽量、薄型)と 7 つの背景形状を持つアイコンを追加
- アイコン、シンボル、図形、画像にキャプションを追加
- キャプションの位置と背景を定義する機能を追加
- 複数のグラフを一括で追加する機能を追加
- グラフィカルデータビューで複数のノードを一括で追加する機能を追加
- アトラスビューの作成をクイックモードオプション(ctrl+クリック)で作成できる機能を追加
- グラフィカルデータビューの自動ズームオプションのズーム機能を調整
- データ形式の自動検出 - 外部データ(HTTP REST など)の解析が必要なセンサーで、自動でデータ形式を識別
- 接続線のアニメーションを追加
- ノードステータスポリシーの追加 - ノードステータスの状態を独自定義によって変更できるように変更
- 丸みのある長方形の図形を追加
- Generic Agent が Data Receiver に変更 - プロトコルの種類によって、カウンタ値が削除できます
- デスクトップコンソールのパフォーマンスの向上
- インターフェースビューの向上 - 任意のノードグループビューで VLAN 及びポートマッピング情報を直接参照できます
- 監視の無効化動作の拡充 - アクティブアラートをクローズしない一時停止モードを追加
- EOL 監視の追加 - Windows 及び ESXi システムのデバイスのサポート終了日の最新情報の入手
- グラフの向上 - ゲージとグラフの要素を組み合わせることが可能
- VMware 監視の拡充 - VM フラグの変更状態を検知
- アクティビティログの適用範囲の変更 - アラートスクリプト、バックアップ構成、再検出、メールサーバー設定、GSM 構成、NetCrunch サービスの再起動、プローブ構成、HTTP プロキシ設定、接続プロフィール、ノードステータスポリシーの更新が含まれます

- ノードグリッドビューの CSV 形式のエクスポートを追加
- ゲージ及びバーウィジェットでのしきい値範囲の表示を追加
- 地理的位置の追加 - Google マップ上にノードを配置することが可能
- グラフィカルデータビューのエディターの更新 - データソースのコピー・アンド・ペーストの追加
- グラフィカルデータビューの更新 - 多くのフィルター可能なフィールドと複数値のフィルターを追加
- 検索機能の改善
- ダークテーマの画像の反転機能を追加
- グラフィカルデータ表示用の明暗テーマオプションの追加
- ウィジェットの参照を別のウィジェットにリンクする機能を追加
- MAC アドレスの拡張 - 追加のコンテキストとして、NIC プロデューサー名を表示
- Web コンソールのユーザー管理 - プロフィールと設定を Web コンソール上から変更可能
- ノードグループビューにマップ機能追加
- アラート制限についての確認の追加
- グラフィカルデータビューの向上 - 複数のグラフの改善、軸の非表示、最小/最大値の設定、シリーズ毎のスケールリングと単位変換、ツールチップのグループ化、シリーズの無効化、ゼロベース、自動ズームの機能を追加
- Bandwidth センサーの追加
- 地理マップの追加 - 地理的等高線マップ、座標ベースでの表示可能。150 個以上の国と地域データが含まれます
- 新しいバーウィジェットの追加 - ストライプの追加、太さを変更可能
- 新しい接続線を追加 - ZiqZaq、バネ、斜めを追加
- ノードのアラート履歴の強化 - 直近の 100 件のアラートを表示可能
- ノード設定ウィザードの改善 - 最適な方法が表示されます
- [ノード]タブのデフォルト表示が「ヘルスステータス」に変更
- [メモ]がノードのステータスウィンドウに移動
- プローブ経路の物理セグメントとインターフェース監視を追加
- 画像管理 - フォルダ内(ドキュメント、共有、パブリック)の画像を整理
- マップを印刷または PDF ファイルとして保存できるように改善
- プログラム全体のダークモードのサポート
- ノードステータスウィンドウの改善
- 再スキャン機能を再追加
- サイズ変更可能なウィジェットの追加
- 設定ウィンドウの刷新
- トレンドビューアの改善 - カスタマイズされた内容がユーザープロフィールに保存されるように変更
- アトラスに存在しないノードも MAC アドレスから接続の可否が検索できるように改善
- NodeJs 20.11.1 ヘアアップデート
- センサーデータの修正 - ノードが Down 時でも保存されたデータ(構成、ソフトウェア)にアクセスできるように修正
- センサーの複製機能を追加

- 図形、アイコン、シンボル、画像アクションを他のアトラスビュー、Web ページにリンクできる機能を追加
- 図形、アイコンの向上 - 多くの事前定義されたスタイルを追加
- ノード監視設定、プロパティ画面の向上
- OS 監視設定のテストボタンの追加
- トレンドビューアにヒートマップグラフを追加
- コンフィグセンサーのプロフィールの新規追加、更新
- 値パネルに新しいオプションを追加
- 値、ゲージ、バーウィジェットに変化のインジケータを追加
- Web ページセンサーの向上 - 特定のリソースの除外設定を追加
- ウィジェットのサイズを統一するための機能を追加
- Basic HTTP センサーアラートのクロージャ問題を修正
- Web アクセスでノード監視を無効にできないように権限を変更
- AD リンクユーザーのクラウド接続経由の Web アクセスの問題を修正
- GrafCrunch でノードリストが正常に読み込めない問題を修正
- バージョン 12 からバージョン 13 のアップグレード後、「SSL 証明書が変更されました」のイベントが発生した問題を修正
- プローブの接続に関する問題を修正
- 監視センサーが監視テンプレートに保存されない問題を修正
- 制限されたユーザーでアラートが正しく通知されない問題を修正
- ワークグループ上で動作している NetCrunch の NC ノードで「Win32 Error: Access is denied」が発生していた問題を修正
- 未使用、利用できない Windows のハードウェア、ソフトウェア、ホットフィックスセンサーの表示を概要ダッシュボードから削除するように修正
- Hyper-V センサーにタイムアウトオプションを追加
- メール通知の件名で「>」や「<」の記号が正常に表示されない問題を修正
- Freshservice の統合に関して、API バージョンの更新、再追加
- IPMI センサーが NetCrunch サーバーのソケット使用率を増加させた問題を修正
- Fortinet FortiGate の Device Config センサーに関する問題を修正
- Fortinet スイッチが物理的セグメントマップに正常に表示されない問題を修正
- Extreme Networks スイッチの Device Config センサーに関する問題を修正

2.2. バージョン 14.1.0.7294

- 物理的セグメントマップ上で接続が切断されているスイッチを表示するように変更
- デバイスタイプとして、Windows Server 2025 をサポート
- Routing Map/VPN 接続 - 孤立していた VPN 接続を確認できるように変更
- Web コンソールの UX を向上 - Windows 11 の外観と操作性を備えております
- [Data Receiver]センサーが正常に動作しなかった問題を修正
- プロキシ経由では、統合とセンサー(Web page、Basic HTTP)が正常に動作しなかった問題を修正
- [共有アラート]タブ内でスクロールバーが欠落していた問題を修正

- グラフィカルデータビューで日本語のファイル名の画像が使用できなかった問題を修正
- [イベント詳細]ウィンドウ内で[解決済み]、[無視する]のドロップダウン値でクローズ理由がなかった問題を修正
- [ユーザーアクセス権マネージャー]ウィンドウを再度開いた場合、誤った API キー名が表示された問題を修正
- [フロー解析]ウィンドウの下部ペイン上にフィルタリングが表示されなかった問題(代わりにグローバルデータが表示される)を修正
- アトラスがロードされていない場合、NCCLI がハングアップしていた問題を修正
- ビューが下にスクロールされていた際、ダッシュボードのドラッグに関する問題を修正
- 数字で始まる DNS 名のノードが追加できなかった問題を修正
- Python スクリプトを実行後、他のセンサーでタイムアウトが発生する問題を修正
- バージョン 13 からバージョン 14 にアップグレード後、[Data Receiver]センサーのデータ形式設定が欠落する問題を修正
- Syslog メッセージの Shift-JIS/UTF-8 のエンコード形式の変更に関する問題を修正
- テンプレートベースのインターフェース識別が有効になっている場合、物理的セグメントマップでトラフィックデータが欠落する問題を修正
- バージョン 13 からバージョン 14 にアップグレード後、[Device Config]センサーで認証失敗のエラーが表示される問題を修正
- テキスト内で山括弧(<>)が使用された場合、メール通知の内容が正しく表示されない問題を修正
- 連続で 4~6 回同じ値が表示する SNMP 監視カウンタ問題を修正
- 概要、インターフェース、ライセンス状態で表示されるインターフェース番号に関する問題を修正
- [OK]のステータス状態が緑色ではなく、灰色で表示されていたステータスウィジェットの問題を修正
- Web コンソールでアラートが正常に表示されない問題を修正
- グラフィカルデータビューでジオロケーションを変更した際、元に戻す機能が正常に動作しなかった問題を修正
- ノード設定の[プロパティ]タブ内でジオロケーションフィールドで複数の値が処理できなかった問題を修正
- Web アクセスで[ノードステータス]ウィンドウの[パフォーマンス]タブ内にカウンタ履歴ボタンが表示されなかった問題を修正

2.3. バージョン 14.1.1.7298

- 14.0.3 で修正された内容が失われていた問題を修正
- [構文解析式]ウィンドウでの変更が保存されなかった問題を修正
- [データパーサー]ウィンドウでの変更が保存されなかった問題を修正
- IP ネットワークマップの変更内容が、物理的セグメントマップのスタイルに影響を与えていた問題を修正
- Syslog メッセージの Shift-JIS のエンコードが正常に動作しなかった問題を修正

2.4. バージョン 14.2.0.7316

- AI の追加 - アラートの説明から様々な内容を学習
- 複合ステータスノードを監視依存関係に追加できるように変更
- EOL レポートの追加 - サポート終了状態の許可リストの確認が可能
- ローカル EOL データの追加 - サーバー上のファイルから EOL 情報を収集
- EOL の上書き - 特定ノードの EOL の日付の変更が可能
- NodeJS を 20.14.0 へアップグレード
- バージョン 12 のアトラスをインポートした際に、コンソールがハングアップする場合があった問題を修正
- ノードのステータス監視の["ノードダウン"アラート抑制]のオプションが逆に動作していた問題を修正
- カスタム SNMP カウンタを [グラフ]ウィジェットに正常に表示できない問題を修正
- REST API の Get リクエストでカスタムノードフィールドが取得できない問題を修正
- REST レシーバーノードの保持期間前にセンサー状態が期限切れになる問題を修正
- 物理的セグメントマップとレイヤー-2で Extreme スイッチの接続に誤りがあった問題を修正
- vCenter のアラートが自動的にクローズしない問題を修正
- 複合ステータスノードの構成が変更できなかった問題を修正
- イベントリセンサーを追加した際に、不要なセンサーが追加され、削除出来なくなる問題を修正
- VM/ESXi のアクティブサポートに関する情報が収集できなかった問題を修正

2.5. バージョン 14.2.2.7321

- バージョン 11、12、13 からアップグレードした後に発生していた問題を修正
- SNMP ビューの左パネルに一般フォルダが存在しなかった問題を修正
- SNMP ビューで octet string の文字列から数値に変換する際に発生していた問題を修正
- SNMP パフォーマンスカウンタでタイムアウトが発生する問題を修正
- SSL ベースのネットワークサービスの誤解を招くエラーメッセージを修正

3. 既知の問題

NetCrunch 14 での既知の問題について記載いたします。

3.1. その他

- Web アクセスを行った場合、マップを表示した際にレイアウトが崩れて表示される。
回避方法:一度マップの[ノード]→[詳細]タブなどを表示したのち、再度[マップ]タブを表示する。

- SNMP プロフィールに SNMPv1 を使用した場合、値を収集できないことがある。
回避方法:SNMPv2 を使用する。

4. よくある質問

NetCrunch について、よくある質問について記載いたします。

4.1. よくある質問および回答

- ノードの設定の[DNS 名]欄に日本語を使用できない。
回答:バージョン 8 より仕様変更のため、使用できなくなりました。ファイルからノードの挿入を用いた場合やバージョンアップを行った場合、DNS 名に日本語を使用している場合、プロパティの変更を行うことができません。
- バージョン 6 からのアップグレード後、アラートのメールの件名に DNS 名が表示されない。
回答:バージョン 7 より、イベントログの表示情報の仕様が変更されております。これにともない、デフォルトでメールのメッセージ定義に使用されている「\$Common.AlertInfo」に含まれる情報が変更されました。DNS 名を表示するパラメータとして「\$Properties.DisplayName」がございますので、メッセージ定義にこのパラメータの挿入をご試行ください。
メッセージ定義の編集方法について、以下に例示いたします。
 1. メインメニュー→[NetCrunch]→[アラート通知]→[メッセージ形式]を選択します。
 2. [アラートメッセージ形式]ウィンドウにて[メッセージ形式]を選択します。
 3. [email-txt]または[email]を選択します。
 4. 編集したいメッセージ定義に[パラメータの追加]からパラメータを挿入し、保存します。
- Admin のパスワードが分からない。
回答:Admin のパスワードが分からない場合、nccli.exe を使用してパスワードをリセットすることができます。nccli.exe は、NetCrunch のインストールフォルダ内に用意されています。
以下に手順を記載いたします。
 1. NetCrunch 搭載サーバーのコマンドプロンプトにて、以下のコマンドを実行します。
nccli.exe reset-admin-password
 2. コンソールを起動すると、ユーザー名とパスワードの入力画面が表示されます。ユーザー名に Admin、パスワードは空欄に設定の上、[OK]をクリックします。

3. [NetCrunch パスワードの変更]ウィンドウにて Admin のパスワードを設定の上、[OK]をクリックします。

- NetCrunch から受信したメールが文字化けする。

回答:NetCrunch では、テキスト形式のメールの文字コードが「UTF-8」に設定されております。また、メールのヘッダー内に「MINE-Version:1.0」という表記が存在しないため、メーラーによっては MINE 形式と認識できず、文字化けする場合がございます。テキスト形式のメールが文字化けする場合、メーラー側で受信したメールを「UTF-8」で表示するか、NetCrunch が送信するメールを HTML 形式に変更することをご検討ください。

- Windows イベントログの監視が行えない。

回答:NetCrunch のサービスの 1 つに、AdRem NetCrunch Server というサービスがございます。このサービスの起動ユーザーは、通常、ローカルシステムアカウントになっております。起動ユーザーがローカルシステムアカウントの場合、環境によっては、Windows イベントログの監視が行えない場合がございます。この事象を解消するには、起動ユーザーを変更する必要があります。

以下に手順を記載いたします。

※Windows の操作については、OS や表示方法によって異なります。

1. NetCrunch のコンソールおよびコネクションブローカーを終了します。
2. Windows のスタートメニューから、[NetCrunch サーバーの停止]を選択します。
3. Windows のタスクマネージャーの「プロセス」タブにて、「AdRem NetCrunch Server」または「NCServer.exe」が存在しないことを確認します。
4. Windows のスタートメニューから、「コントロールパネル」→「管理ツール」→「サービス」を選択し、サービスツールを起動します。
5. 「サービス」ウィンドウ上にて、「AdRem NetCrunch Server」を右クリックし、「プロパティ」を開きます。
6. 「AdRem NetCrunch Server のプロパティ」ウィンドウの「ログオン」タブにて、「アカウント」を選択し、「アカウント」と「パスワード」を設定します。「アカウント」は、「参照」ボタンから設定を行います。
※Administrators 権限のローカルユーザーまたは NetCrunch の Windows 監視ドキュメントの条件を満たしたドメインユーザーを設定します。
7. Windows のスタートメニューから、[NetCrunch サーバーの開始]を選択します。
8. Windows のタスクマネージャーの「プロセス」タブにて、「AdRem NetCrunch Server」または「NCServer.exe」が存在することを確認します。
9. NetCrunch のコンソールを起動します。
10. 監視対象の Windows ノードを右クリック→[ノードの設定]を選択します。

11. 新しく開いたウィンドウの[監視]タブの[Windows]の項目の右側にある歯車のアイコンをクリックします。
12. [Windows]ウィンドウの[認証プロフィール]の項目で[編集]をクリックします。
13. [認証プロフィール]ウィンドウにて、[ユーザー名]と[パスワード]を設定します。すでに[ユーザー名]などが設定されている場合は、設定をいったん消去し、再度設定します。
14. [OK]をクリックし、現在開いているウィンドウを閉じます。

※手順[10.]から[14.]は、Windows ノード毎に対して設定する必要があります。

※AdRem NetCrunch Server の起動ユーザーの変更後、監視問題が発生する場合がございます。手順[14.]まで実施いただき、Windows ノード毎の認証プロフィールの設定後、監視間隔以上の時間監視問題が解消されない場合は、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

- CSV ファイルからノードを追加する際、名前を設定して追加した。当初はノードのキャプションにはホスト名が表示されていたが、いつの間にか名前の表示が消えていた。

回答: CSV ファイルから追加したノードの名前が名前解決できないものである場合、ノードの設定にある[DNS 名]欄に名前が反映されません。この場合、[DNS 名]欄が空欄となり、空欄のまま設定を保存しますと、ノードのキャプションに表示されていた名前が削除されます。ノードの設定を編集する際には、[DNS 名]欄を再設定していただく必要があります。

[DNS 名]欄を使用する以外にノードに名前を設定する方法としては、[表示名]欄とフィールドを使用する方法が考えられます。[表示名]欄を設定しますと、任意の名前をノードのキャプションに反映することができます。また、フィールドに設定することで、メール通知などのメッセージのパラメータを使用することができます。

- トレンドデータ、イベントデータのテキスト出力方法が解らない。

回答: トレンドデータ、イベントデータをエクスポートする場合、nccli.exe を使用してエクスポートすることができます。nccli.exe は、NetCrunch のインストールフォルダ内に用意されています。

※バージョン 14 ではタイムゾーンが UTC を採用されております。そのため、デフォルトで JST - 9 時間の時間が表示されております。

以下に使用方法の例を記載いたします

```
nccli.exe export-trend -node <node> -counter <counter> -from <fromDate> [-to <toDate>] [-file <fileName>] [-local-date]
パフォーマンスデータを CSV ファイルにエクスポートできます。
```

コマンドパラメータ (export-trend):

オプション	説明
-node	ノード名、アドレス ID

-counter	カウンタパス。 例:Processor(_Total)\% Processor Time
-from	開始日。 例: 01/31/2022 or 2022-01-31
[-to]	終了日 (オプション). パラメータが指定されていない場合、プログラムは 1 日のデータのみをエクスポートします。
[-file]	出力ファイル名 (フルパス)。 デフォルト <アトラスデータフォルダ>\TrendExport
[-local-date]	実行機器で使用されているタイムゾーンでの表示ができます。

nccli.exe export-events -node <node> -from <fromDate> [-to <toDate>] [-file <fileName>] [-output <dataFormat>] [-local-date]

イベントデータを CSV または JSONL ファイルにエクスポートできます。CSV ファイルはフラット形式であり、イベントパラメータを含めることはできません。

コマンドパラメータ(export-events):

オプション	説明
-node	ノード名、アドレス、ID
-from	開始日。 例: 01/01/2022 or 2022-01-01
[-to]	終了日 (オプション). パラメータが指定されていない場合、プログラムは 1 日のデータのみをエクスポートします。
[-file]	出力ファイル名 (フルパス)。 デフォルト <アトラスデータフォルダ>\EventExport
[-output]	出力データ形式。CSV(デフォルト)または JSONL。プログラムは、イベントパラメータを JSONL 形式にのみエクスポートできません。
[-local-date]	実行機器で使用されているタイムゾーンでの表示ができます。